



ほしのこ  
の  
ほしみかき

あもちやどりねこさん

2

織夜

## ほしのこのほしみがき 1

---

「さあ、きょうはたなばたです。」

やわらかなわたがしのようなこえで、ほしみせんせいはゆっくりいいました。それをきいて、きらきらした、にぎやかなこえがひびきます。

「たなばた！」

「うれしいひ！」

こどもたちはびよんびよんしながら、はいはいとてをあげました。

「そうです。ちじょうのおともだちが、いっせいにほしをみるひです。みんな、ほしのでるのをたのしみにしてくれる、だいじなだいじなほしのひです。」

「しってます！ちじょうのこは、よるはおうちにはいってしまって、ぼくらをみあげてくれないけれど、たなばたのひは、みーんなが、ほしがでるのをたのしみにしてくれているんだよね。」

ようちえんでいちばんはきはきしている「ほしまさ」くんがきびきびといいました。

「そのとおり。ふだん、みんながおもちゃをもらっているちじょうのこに、きょうは、とくべつにきれいなほしをみせてあげましょう。」

ここは、おそらにあるこぐまぎようちえんです。かみのけが、あか、あお、きいろとひかっている、ほしのこがかよっています。

おそらのせかいにはおもちゃやえほんがありませんでした。なので、「おもちゃどりねこ」というねこが、ちじょうにおりては、おもちゃをおそらにはこんでいました。ほったらかしだったり、わすれてあったり、かたづけられていないおもちゃをもらってくるのです。

そしてほしのこたちは、ねんにいちどのたなばたのひに、もともとおもちゃのもちぬしである、ちじょうのこどもに、かんしゃのきもちをみせます。

## ほしのこのほしみがき 2

---

ようちえんバスの、きょうのうんてんしゅは、おもちゃどりねこさんです。まんげつみたいなきんいろのめを、ピカピカひからせて、こどもたちのあしもとをてらし、あんぜんにきをつけます。ほしのこたちは、てにほうきや、ぞうきんなどのそうじどうぐをもってのりこみます。

「ほーらほーら。あわてないでー、ゆっくりおのり。こらこら、それはほうきじゃなーい。」

うっかりさんのほしかずくんが、おもちゃどりねこさんのふわふわのしっぽを、ほうきとまちがえてひっぱったので、おもちゃどりねこさんはたまりません。ちょっぴりめからなみだがでました。

「ごめんね。おもちゃどりねこさん。」

「だ、だいじょうぶだよ。さ、ぜんいんのったら、ほしたちのところにしゅっぱつだー。」

「はーい。」

まずは、おおきな「あまのがわ」の、ちいさなちいさなあかちゃんぼしたちを、やさしくざるにすくって、あらってあげました。キャラキャラとはしゃぐようなおとがします。

つぎに、ほしのこたちは、おほしさまをじゅんばんに、デッキブラシでみがきました。

こぐまざには、おおきなほし、ちいさなほし、いろいろありますが、こどもがそうじするのはちいさなほしだけです。おおきなひとつぼし「ポラリス」は、あらうところがおおいので、おとなのほしびとが、たなばたにあわせて、なんにちもまえからそうじをします。

こぐまざののにほし「コカブ」と、さんのほしの「フェルカド」は、ねんにいちどのおそうじに、

「ぷはあー。さっぱりしたッピカ！」

「これでいちねんきれいにひかることができるピカよ。ありがとうピカ。」

と、めをほそめました。そのほかのこぐまざのほしぼしも、きれいにみがいてもらいました。

そうじをすると、くすんでいたほしのひかりも、まばゆいばかりのうつくしいかがやきをとりもどします。どこからともなく、うっとりするようなおんがくがきこえてきました。

「よくがんばりましたね。ほら、ほしたちがよろこんでうたってくれてますよ。」

ほしみせんせいが、めをとじてうっとりとききいりながら、いいました。ほしのこたちも、みみをすませました。こころにしみいる、うれしいおれいでした。

「うわあ、きれいだな。」

みんな、かえりのバスにのりながら、ピカピカになったほしぞらをながめて、はしゃぎました。

「ちじょうのこはよろこんでくれるかなあ・・・。」

こぐまざようちえんにもどると、えんちょうせんせいが、けっそうをかえてかけてきました。

「みなさん、たいへんです。」

「どうしたんですか？えんちょうせんせい。」

ほしみせんせいも、えんちょうせんせいのうろたえぶりに、しんぱいそうなかおで、かけより

ました。

「く、くろくもわるわるが……。あのきょうぼうな……。」

「なんですか？」

こどもたちもせんせいたちのようすに、さっきまでのたのしいきもちがどこへやら、ざわざわとふあんそうにめをみあわせました。

「まあ、ことしもじゃましにきたか。くろくもわるわるのやつ。」

おもちゃどりねこさんのめがするどくひかりました。いつものやさしいかおから、めはつりあがり、みどりのけはさかだって、まんまるのボールのようです。

「くろくもわるわる」は、そらのあらくれものでした。なまえのとおり、すすのまじったくろいくもがつながっていて、りゅうのようにながくておおきいきものでした。ひとのじゃまをしたり、かなしむことをするのがだいすきで、まいとし、たなばたになると、きれいになったほしを、ちじょうのこにみせまいと、ながいながいくろいしっぽで、そらいちめん、とぐるをまいて、じゃまをするのです。

「こーんなにみんなががんばってきれいにしたほしを、おもちゃをもらっているちじょうのこにみせる、だいじなひだ。それを、だれにもじゃまさせない。」

おもちゃどりねこさんは、そういうと、ばくはつてきにひかり、びゅんととんでいきました。

### ほしのこのほしみがき 3

---

「おもちゃどりねこさんは、どこへとんでいったの？」

「みんなのために、くろくもわるわるをたいじにしにしてくれたのよ。」

「けがなく、かえってきてくれるように、みんなでおうえんしましょう。」

ほしのこたちは、かみのけをきらきらひからせて、おおきなこえでさげびました。

「おもちゃどりねこさん、がんばって！」

おもちゃどりねこさんは、いつもはおもちゃをいれているくろいふくろをひるがえし、とうぎゅうしのように、かまえました。それをみて、くろくもわるわるは、しゃがれたざらざらしたこえで、

「ぎっひゅっひゅっひゅっ」

とわらいました。

「そんなふくろがなんのやくにたつものか。けちらしてやるぎゃー。そしてきょねんみたいに、そらをくろくもでいっぱいにしてやるのぎゃー。」

びゅっと、くろくもわるわるがすごいスピードで、おもちゃどりねこさんにむかっていきます。

「あれ？くろくもわるわるにのみこまれちゃった？」

「どこにいったの？おもちゃどりねこさーん。」

みんながめをこらしていると、ふいに、ものすごいさげびごえがしました。くろくもわるわるのからだが見るみるちいさくなっていきます。みると、おもちゃどりねこさんが、ちぎれてふわふわとはなれていく「くろいかたまり」を、どんどんふくろにすいこんでいます。くろくもわるわるは、わるいところでおおきくなっていたからだをどんどんとられて、クレヨンくらいのちいさなへびになってしまいました。

「ねこめー・・・おぼえてろぎゃ！！」

かわいすがたになったくろくもわるわるは、くねくねしながら、みなみのそらのほしのかなたにきえました。

みんなのもとへもどってきたおもちゃどりねこさんは、くろくよごれてはいましたが、けがなく、げんきでした。

「おもちゃぶくろにこどもの「のらブラックホール」をいれておいたんだ。こまかくするのは、てまだったが、うまくいったよ。これで、ちじょうのこたちも、ほしをたのしめるだろう。」

「ありがとう！おもちゃどりねこさん。」

ほしのこたちは、ちじょうのこをまねて、たんざくをかきました。でも「ねがいごと」ではありません。

『いつもおもちゃ、ありがとう』

と、おもちゃどりねこさんへのかんしゃのことばです。それをおもちゃどりねこさんがかぶった、あかいさんかくのぼうしに、たくさんさしてあげるのです。

ちじょうのほしは、いつもとかわらず、またたいていました。そのなかで、ほしをみあげてい

るこどものかおは、ほしのこたちとおなじくらいかがやいていました。

☆おしまい☆